

米 山 山 行 記 録



目的地	米山 (柿崎下牧からピストン)	期 日	平成17年3月20日 (日)
山人	笠原正雄単独	特 記	8年前の夏、斉藤修二夫妻と行ったコース

地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
与 板	午前 7:30 発	晴	8号線に行く。峠を下りた曾地からこの山が雪の消えた田んぼの向こうに見える。白く形が良い。先へ進むうちに頂上小屋も見えた。
柿 崎 下 牧 多目的センター 杉 林 を 行 く	9:00~9:25	"	見覚えのある建物に着く。数台駐車あり。一人歩き始めるところであった。登山届ポストがあったが、記入せず結局無届登山。
急 登	9:45~10:10	"	踏み後が無ければルート判断が出来なかっただろう。
小 屋	10:15~10:25	"	杉林を抜けるとすぐに急登となる。結構キツイ。所々手を使ったり、枝に頼らなければならない。振り返ると海が見える。
小 高 い 丘	10:55	"	休む。尾根に上がり急登から開放されて到着。水野部落が右下に見える。
やせ尾根難所	11:10	"	ブナ林の広い尾根の緩やかな登り。硬い雪の上のわずかな新雪を踏むと心地好い音がする。頂上が見える。ここから少し下り雪が剥げ、わずかに夏道が露出している。ただし唾を飲み込みたくなるようなルートだ。
軽アイゼン装着	11:20	"	剥げた雪が右側に落ちている。もし自分が落ちるなら左側にしよう。
頂 上 小 屋	11:40~1:00	曇	斜面に行く道はキックステップで足元を作ったり、手をつけて体勢を確保しなければならない箇所があった。
やせ尾根通過	1:20~1:25	"	1階は20人位、賑やか。2階に上がる、男2人。会話する。彼らは先に下山して、一人で2階貸切となる。小屋最後の客となった。小屋を出ると男女数人パーティーが下り始めた。「あゝ、帰りは連れがいるな」と思って彼らの後を追った。所がそちらは大平への道である。振り返ると小屋の位置が違っていることに気付き、少し登り返して、下牧へと修正した。
小 屋	2:00~2:10	"	やれやれである。少し登って小高い丘へ。
下牧センター	2:55	"	休む。この後、下るうちに雪が緩んできてたびたびぬがるので、急降下途中で軽アイゼンからワカンに履き替える。
与 板 着	5:20	"	結局、上山時、頂上直下で単独男と行き交ったのみで、コース上ではずっと一人旅であった。
			同じ8号線に戻り、ヤマダ電機でMOデスクを買って帰る。

数年前の2月10日 YHC7~8人で大平から入山し、新雪のラッセルを体験した。雪も降っていて元気者は頂上へ向かったが、広場で中野・石黒両氏とともに引き返したことがある。コースは違うものの、リベンジ出来た。

8年前の記憶で不確かだが、小屋手前の尾根に上がるまでは、夏道とは違う所を登っているような気がした。そして、雪道のせいだろうか、予想よりもハードで大汗をかいた。また、小屋後に狭い尾根通過を覚えていて、そこに雪が着いたらどんなだろうかと思っていた。やはりその通過は緊張した。しかし大平コースに比して、入山者も少なく、横移動も無い。山の中に入ったという景色は米山の位置からして望めないものの、結構登りでのある山行だった。

反省点：なめてかかって車にピッケルを置いて行ったこと。下山始めコースを誤ったこと。

[特記] ボイスレコーダー・ポケナビ・膝サポーターを新調して、試運転の山行である。サポーターは別にして、V.Rとナビは有効だ。どちらも慣れるには数回使用しなければならないだろう。特にナビは使いこなせば、強力なアイテムになると思った。